

入試情報

一般選抜試験(科目と配点)

前期(25名)

	国語	地理歴史・公民	数学、理科	外国語	合計
センター試験	100	100 ¹⁾	100 ²⁾	250 ³⁾	550
個別試験	200 ⁴⁾			200(英語)	400

1) 地理歴史・公民は1科目を選択。 2) 数学、理科から1科目を選択。
3) 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語。ただし英語以外の外国語については200点満点を250点満点に換算。 4) 国語総合・現代文B

後期(15名)

	国語	地理歴史・公民	外国語(英語)	合計
センター試験	100	100 ¹⁾	250	450
個別試験		小論文200		200

1) 地理歴史・公民は1科目を選択。

特別選抜

推薦入学(10名) *各高校2名まで

試験科目：「総合問題」 100点(総合問題には英語力を問う設問を含む。)

面接：「面接」 100点

※ 地域等の条件…次のいずれかに該当する者

- ①滋賀県内の学校を平成28年度内に卒業(修了)または卒業(修了)見込みの者
- ②入学の1年前(平成28年4月1日)から引き続き本人または保護者(親権者)が滋賀県内に居住している者

帰国子女・私費外国人留学生(若干名)

試験科目：「総合問題」

面接：「面接」

※ 私費外国人留学生特別選抜の出願には、独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成28年度日本留学試験を受験する必要があります。

交通アクセス

0 10 20 km

- JR南彦根駅まで
JR京都駅から
普通で65分
JR名古屋駅から
快速で80分
(米原駅で乗り継ぎ)
- JR彦根駅まで
JR京都駅から
新快速で50分
新幹線で30分
(米原駅で乗り継ぎ)
JR名古屋駅から
新幹線で35分
(米原駅で乗り継ぎ)
JR金沢駅から
特急で120分
(米原駅で乗り継ぎ)

大学周辺マップ

0 1000 2000 m

- JR南彦根駅から大学まで
バスで15分/タクシーで8分
- JR彦根駅から大学まで
バスで25分/タクシーで10分

滋賀県立大学

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470

The University of Shiga Prefecture

2500 Hassaka-cho, Hikone City, Shiga 522-8533 Japan

<http://www.usp.ac.jp/>

▼国際コミュニケーション学科のホームページ

<http://www.shc.usp.ac.jp/icc/index.html>



滋賀県立大学概要

滋賀県立大学は、環境科学部、工学部、人間文化学部、人間看護学部の4学部を擁する総合大学で、「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」をモットーに、フィールドワークや実験実習を多く取り入れた特色ある教育研究を行っています。4つの学部の中には13の学科が設置され、また各学部を基礎に大学院も開設されています。国際コミュニケーション学科は、人間文化学部の5番目の学科として新たに開設されました。(詳細はHP、キャンパスガイドを参照)

受験料

17,000円

入学料

県内：282,000円 県外：423,000円

※ 入学手続時に納入

授業料

年間総額：535,800円

※ 前期・後期に分け納入(各期：267,900円)

※ 留学費用は別途必要です。

奨学金

日本学生支援機構奨学金などの制度が活用できます。

留学助成金制度

一定の条件のもとに海外留学生者を経済的に支援する制度があります。

	留学種別	留学助成金	合計額
交換留学	アジア圏以外	月額2万円	最大24万円
	アジア圏	月額1万円	最大12万円
派遣留学	派遣先授業料		上限20万円
	認定留学	の1/2	上限10万円

※ 詳しくは留学ガイドブック2016を参照してください。

OPEN CAMPUS

7月23日(土)・24日(日) 9:00～15:00



2017年度用



人間文化学部

SCHOOL OF HUMAN CULTURES

DEPARTMENT OF INTERCULTURAL COMMUNICATIONS

国際コミュニケーション学科

異文化を理解・体験する

国際社会を理解する

外国語による
コミュニケーション能力の向上

さらにあなたは何を



にしますか？

滋賀県立大学

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE





2016年3月に本学科の第1期生が卒業し、社会へと旅立ちました。

複雑化・多様化する社会において国内外を問わず広く活躍することのできる、国際的視野と語学力を兼ね備えた人材の育成を目的として、滋賀県立大学人間文化学部にも本学科が開設されて4年が経過しました。他学部・他学科との連携によって、大学全体の国際化は着実に進められています。

こんなあなたを求めています！



- 01** 日本だけでなく諸外国の社会・文化・歴史に強い関心を持ち、それらについての幅広い知識・教養を身につけようとする人
- 02** 英語（または他の外国語）を意欲的に学んできた人で、今後もそれらの実践的運用能力を高めようとする人
- 03** 獲得した知識を活かして、国際社会および地域社会において積極的に異文化間コミュニケーションを図り、国際化する社会のさまざまな課題に取り組む意欲をもった人

学びのステップ グローバル化する現代社会に適切に対応する「知と実践力」を養うカリキュラム

自国や諸外国の社会・文化・歴史等に関する幅広い知識や教養、英語を中心とした複数の外国語の運用能力と国際的視野を学生一人一人が身につけることを目指します。

4年間の学習フロー

学生一人一人が身につけることを目指します。

科目区分	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
全学共通科目	外国語・健康体力科学・情報処理							
	人間学							
学部共通基礎	環琵琶湖文化論実習・人間文化論							
学 科 基 礎	文化人類学概論							
学科専門科目	基礎科目					展開科目		
言語コミュニケーション	英 語 「読む・聞く・話す・書く」の四技能をバランス良く身につける。							
	実践英語 TOEICやTOEFLなどの検定試験に対応できる力をつける。							
	初習外国語 英語以外の初習外国語の能力を身につける。							
	言語と文化 言語・文学・文化などに理論的な側面からアプローチする。							
多文化コミュニケーション	多文化共生 多民族・多文化化する現代の世界や地域社会の課題を理解し、それに対応できる知と実践力を身につける。							
	国際教養 国際的視野で異文化を理解するための方法論を身につける。							
	国際文化論 世界各地域、とりわけ留学先の文化・歴史・社会等への理解を深める。							
少人数演習	人間探求学(全学共通)		基礎演習		発展演習		研究演習	
卒業研究・論文								

| 資格関連科目 | | | | | | | | |

目標

TOEIC730点以上を達成!

外国語コミュニケーション能力と国際的視野を身につけるための科目群

各科目群の学びをさらに深め、同時にプレゼンテーション、ディスカッション、論理的思考、問題発見・解決のための力を身につける少人数での演習(ゼミ)

論理的なアカデミック・ライティングと、内容の独創性を備えた卒業研究・論文で、学びを集大成する

中学校教諭一種免許(英語)・高等学校教諭一種免許(英語)が取得可能なカリキュラム

学びの「PLUS One」— 学科の特色 —

PLUS

2言語

合言葉は「英語＋ワン」

すでにヨーロッパ諸国や韓国などでは「母語プラス2言語」の考え方が一般的になってきています。これからは英語ができるのは当たり前で、それに加えて何ができるかということが問われます。この学科では英語以外の言語もしっかりと学習できるようなカリキュラムを用意しています。

- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- 朝鮮語
- モンゴル語

から選択

本学科の自習室

PLUS

海外留学

短期集中、長期的展望

みなさんには2回生の後期から1年間の海外留学(短期・中期もあります)を推奨し、その準備をするために短期間で語学力を身につけるカリキュラムを用意しています。また、帰国してからも、留学中に身につけた外国語の運用能力を維持・向上させるための授業があります。

「留学体験レポート」
を見てください。

さらに！

言語だけに限らず
あなただけの

PLUS One

を見つけてください

次のページへ

PLUS

向上心アップ↑

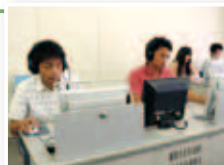
教員は身近な相談相手

スタッフの多くは全学共通教育の外国語科目の授業も担当していますので、基礎教育の段階から専門教育まで一貫してサポートすることになります。ほとんどが少人数制の授業ですので、学生と教員の距離が近く、きめ細やかな指導やサポートが可能です。

自習に適した学習環境

言語の習得に欠かせないのが、自習の時間です。授業外での学習をしっかりとサポートするために、TOEIC対策の学習プログラムを学内外にあるどのコンピュータからでも自由に使うことができる環境を整えています。また、LL教室や学科の自習室、Communication Loungeなどの施設もありますので、大いに役立ててください。

これ以外にも
あなたにあわせた
履修モデル
が組めます。



LL教室

あなたは何を「PLUS One」にしますか？

● 履修モデル① 英語圏への長期留学

国際コミュニケーション学科では1年間の留学をしても4年間で卒業できるようなカリキュラムとなっています。もちろん、英語以外の外国語を「プラスワン」にしたい人にも第2外国語の中級・上級科目を履修するチャンスはあります。

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
留学に必要な外国語能力を身につけます 海外留学に備えて英語を集中的に学びます。 英語集中期間		海外留学 1年間の長期海外留学を経験します。		外国語能力をさらに磨きます 「読む・聞く・話す・書く」の四技能を バランス良く磨き上げます。			

● 履修モデル② 教職課程+短期留学／中期留学

教職課程は将来教師になることを目指している人だけではなく、「教える」という観点に立って何かを学びたいと考えている人にとってもお勧めです。他者に自分の考えをわかりやすく伝えるためには何が必要となるのか体感し、教職課程で身につけた能力を是非あなたの「プラスワン」にしてください。

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
外国語能力を身につけると同時に教職科目を履修します 海外留学に備えて英語を集中的に学びます。 英語集中期間				外国語能力をさらに磨きます 「読む・聞く・話す・書く」の四技能を バランス良く磨き上げます。 教育実習			

※教職課程+長期留学の場合、4年間で卒業することは困難になります。

● 履修モデル③ 英語圏以外の国への留学

英語圏以外の国へ留学する人のために、第2外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、モンゴル語)を留学前に集中してしっかりと学べるカリキュラムを用意しています。第2外国語を中心に学びたいと考えている人の「プラスワン」は英語になります。

1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
留学に必要な外国語能力を身につけます 海外留学に備えて第2外国語を集中的に学びます。 英語集中期間		海外留学 長期・中期・短期の いずれかの海外留学を経験します。		外国語能力をさらに磨きます 「読む・聞く・話す・書く」の四技能を バランス良く磨き上げます。			

PLUS

ステップアップ

教職課程

本学科では英語の教師を目指す人のために中学校教諭一種免許状(英語)と高等学校教諭一種免許状(英語)が取得できるカリキュラムが用意されています。決して楽に取得できるものではありませんが、チャレンジする価値は大いにあると思います。特に教育実習は今まで自分が学んだことを活かすことができる貴重な機会となるでしょうし、忘れられない体験となることでしょう。

大学院への進学

また大学卒業後もさらに勉強を続けたい人は、本学の大学院(人間文化学研究科博士前期・後期課程)に進学することも可能ですので長期的な展望をもって勉学に取り組んでください。



交換留学生との交流 (湖南師範大学×滋賀県立大学)

その
学びのコラム①

ソトを知り、ウチを知る

自分を知るためには、いつも「他者」を参照する必要があります。それは他人と自分を比べて優越感や劣等感を抱くことではなく、自分と向き合うためのヒントを得るためです。他国の文化を知ることによって、自国の文化を意識し理解を深めることができます。



Japanese Room

本学科学生が、留学生のために日本語や日本文化と一緒に学べる機会を提供しています。

PLUS

おうみがくし
近江楽士(地域学)副専攻

副専攻は主専攻である「学科」における学習に加え、全学部・全学科にまたがって学際的・横断的に学習するプログラムのことです。

近江楽士(地域学)副専攻では「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学」という本学の特徴を活かし、地域に学ぶ教育プログラムを通して、コミュニケーション力、問題解決力、行動力などの社会人基礎力の向上を目指します。

詳しくは

<http://www.usp.ac.jp/gakubu/tiiki/ohmirakushi/> を参照してください。

プレゼンコンテストへの参加



本城志帆さんと中井円翔さんが、第9回森田杯・英文毎日杯「ペアで紹介する日本文化プレゼンコンテスト」で3位(英文毎日杯)に入賞しました。

その
学びのコラム②

継続する力

一つの言語を習得するのは非常に難しいことです。誠実にコツコツと学ぶ姿勢がとても重要になってきます。継続は力なり! また、大学だからこそ、すぐに身につかないことをじっくり学ぶことができますし、言語のしくみや言語の背景にある社会・歴史・文化などについてもさまざまな角度から学びましょう。



模擬国連への参加

2016年6月24日(金)から26日(日)まで京都外国語大学で開催された日本大学模擬国連大会(Japan University English Model United Nations:JUEMUN)に本学科の学生8名が参加しました。350名以上の参加者が国際連合の「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を中心に英語で意見交換や討論をしました。

研究分野とスタッフ

□ 応用言語学

これまで個々に研究されていた言語学・教育学・心理学などの学問の境界を越えて多角的に言語を研究する学問です。具体的な言語データを実際の教室から収集し、その分析を通して言語習得を理論的に説明したり、教育現場に活かすことに結びつけたりします。言語をその背景を踏まえて考察する人文科学と社会科学の複合領域です。

(小栗 裕子教授、ジョン・リピー教授、マーティン・ホークス准教授)

□ 言語学

ヒトが使用する言語には、ヒト以外の生物のコミュニケーション手段とは質的に異なる特徴があります。言語学とは、人間言語の〈形式〉と〈意味〉との関係、歴史的な用法変化などの諸問題を、母語話者の言語直感(文法的容認度)、文献調査、電子データ化された言語資料等に基づいて科学的・理論的に分析し、ことばの不思議に迫る学問領域です。

(地藏堂 貞二教授、呉 凌非教授、小熊 猛教授、吉村 淳一講師)

□ 英文学

イギリスだけではなく広く英語圏の文学作品を読み、実用的コミュニケーションからはみ出す言葉の効果を研究します。言葉そのものの美しさをじっくり味わいながら作品を丁寧に読み、作品の歴史的背景や文化的状況を理解することを通して西欧の思想・文化・歴史の伝統の大きな流れを掴みます。

(山本 薫准教授)

□ 文化史・思想史

わたしたちが日頃、あたりまえのように親しんでいる様々な文化が、どのような時代的(社会的・政治的)背景において形作られてきたのかについて調べ、分析します。また、そのような文化の歴史が、当時の哲学的な思考とどのような連関を持っているのかについても考えます。

(谷口 真紀助教、橋本 周子助教)

□ 近現代史

近現代史は、歴史の当事者たちがまだ生きていて語り尽くされていない部分が沢山ある研究分野です。また、激変する現代社会の方向性によって解釈がいろいろと変わることもありますので流動的な学問ともいえます。歴史を溯ることによって現代社会を理解します。

(ボルジギン・ブレンサイン准教授、河 かおる准教授)

□ 文化人類学

文化人類学は、個々の文化の特殊性と、人間存在の普遍的性格についての考察を積み重ねてきた学問といえるでしょう。それは、めくるめくような文化の多様性の中に、人間存在の核のようなものを見つける作業といえるかもしれません。本学科のスタッフは、それぞれチベットとモンゴルを対象とし、人間とその文化についての考察を深めてきました。

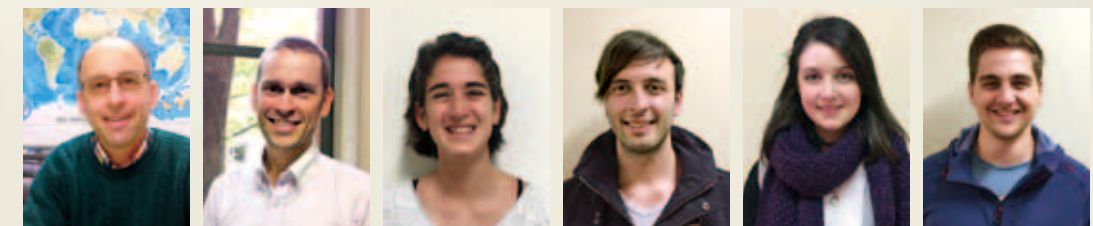
(棚瀬 慈郎教授、島村 一平准教授)

学習支援

Communication Lounge
(A1棟119号室)

本学科の学生の外国語学習や留学生との交流のための空間です。定期的にニュースレターを発行して英検やTOEFL・TOEIC等の検定試験などの様々な情報を提供し、英語の学習方法や留学についてのあらゆる相談に応じています。管理者のEmiko(大江英美子)さんとの英会話やNice Conversations Programによってあなたの英語力を伸ばしてください。

(詳しくは<http://englishroom119.jimdo.com/>)



NICE CONVERSATIONS PROGRAM

あなたもCommunication Loungeでネイティブ・スピーカーの教員や交換留学生と英語(+ドイツ語/スペイン語)での日常会話を楽しみましょう。

CLSプログラム

国家安全保障に重要な役割を果たす言語の運用能力をもつ人材を育成することやその分野の教師の数を増やすことを目的として、アメリカ合衆国国務省のCritical Language Scholarship(重要言語奨学金)によって助成されているプログラムです。2015年度に引き続き滋賀県立大学が日本では唯一の開催校となり、全米から選ばれた24名の大学生と大学院生が6月から約2カ月間日本に滞在し、日本語や日本文化について学びます。本学科の多くの学生がインターン、ティーチングアシスタント、言語パートナーとしてこのプログラムの運営や交流イベント(食事会、お茶会、落語会、遠足など)に積極的に参加し、24名の奨学生たちとの交流を大いに楽しんでいます。このプログラムは2018年度まで継続する予定です。2016年度は本学科の学生のみならず、他学部・他学科の学生も協力してくれています。



交換留学生

Japan in Full Bloom

Annie Kathleen Williamsさん
(オーストラリア・シドニー工科大学)



Within my first couple of weeks here in Japan, I had the privilege of seeing the full blooming cherry blossoms, *sakura*, in all their glory. In Australia, it is difficult to see cherry blossoms, so it was a new experience for me. It was interesting to witness the ways in which cherry blossoms are intertwined and represented through Japanese culture. From *sakura* flavoured snacks to *hanami*, it was a great introduction to my new home for the next year. Tourists and locals alike take these precious few weeks in spring to appreciate the natural beauty Japan has to offer.

The moat surrounding the University of Shiga Prefecture campus is lined with cherry blossom trees; I remember being amazed by how pretty the campus is (nothing at all like the UTS campus in Sydney – located in the middle of the city). Truly, it's a beautiful environment for Japanese language and culture study.

Climbing Mount Ibuki

Matthias Moserさん
(ドイツ・アウクスブルク大学)

Hello, I'm Matthias. I came from the University of Augsburg as an exchange student in late September 2015. I was eager to explore my new home, Shiga, and since I'm from the south of Germany, I'm a big fan of mountains. Therefore, I decided to climb Mount Ibuki. At first I thought it was going to be an easy climb, but it turned out to be more difficult than I expected.

At the start of the trip, two other exchange students and I went from Minami Hikone Station to the train station nearest to the mountain. And there we encountered our first problem. We missed the bus to the start of the trail and started the climb two hours later than planned. It was a hard and challenging climb because the ground was still wet and the further we got up, the more snow was lying around. At the top, we were standing more than ankle deep in snow.

Everything that went wrong was finally still worth it for the wonderful view we were able to enjoy.



ようこそ国際化推進室へ

本学学生の海外留学に関する相談に応じ、実際に手続きを行ってくれるところが国際化推進室です。外国人留学生の受け入れ支援も行っています。留学するならまずは気軽に相談してみましょう。

留学ガイドブック2016ができました

本学科のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.shc.usp.ac.jp/iccl/>

本学科の留学状況(2016年6月現在)

	国名	入学年度		
		2012	2013	2014
交換派遣・認定*	アメリカ合衆国	27	28	24
	イギリス	2	0	2
	カナダ	1	1	3
	オーストラリア	0	1	1
	ニュージーランド	0	2	3
	ドイツ	3	4	3
	フランス	1	3	2
	イタリア	0	0	0
	中国	2	3	0
	台湾	0	0	0
	韓国	2	1	0
	モンゴル	3	0	2
	ロシア	1	1	0
	ハンガリー	1	0	0
	スペイン	0	0	1
短期	アメリカ合衆国	1	0	0
	カナダ	1	2	0
	イギリス	0	1	0
	ドイツ	2	0	0
休学**	韓国	1	1	0
	オーストラリア	1	0	0
	フランス	0	1	0
	ミャンマー	0	1	0
留学した学生数***		43	45	42
各学年の学生数		50	50	48

* 長期・中期

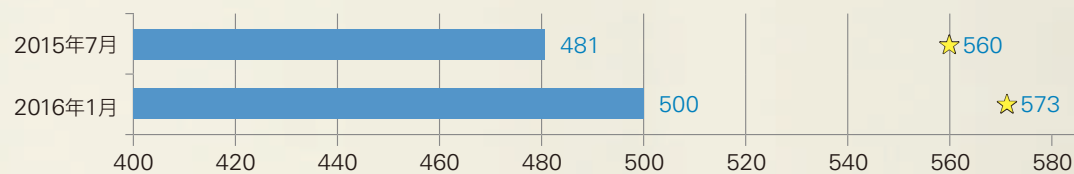
** 休学中の場合、単位の認定はありません。

*** 一人の学生が2箇所以上に留学していることもあるため、上欄の合計値とは一致しません。
また、また、まだ出発していませんが、留学が確定している学生も含まれます。

TOEFL-ITP／留学対策

英語圏の多くの大学が、TOEFL-ITPのスコア500以上(677が満点)を志願の条件としています。

2015年度入学生のTOEFL-ITPベストスコアの平均点の推移



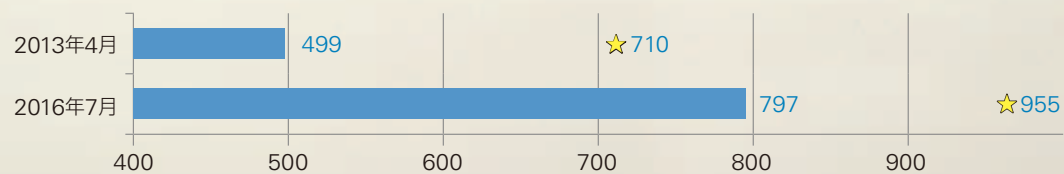
備考：2015年7月までに受験した学生43名のみ対象。
また、2016年1月までに受験した学生50名のうち23名が500以上(7名が550以上)に達しました。

TOEFLテストとは、Test of English as a Foreign Languageの略で、大学のキャンパスや教室といった実生活でのコミュニケーションに必要な、読む・聞く・話す・書く4つの能力を測定するものです。アメリカの大学に留学するには、このTOEFLのスコアが必要です。個人受験は現在、iBT(Internet-based Test) というインターネット版のテストのみ受験可能です。滋賀県立大学でも団体向けテストプログラム TOEFL ITPテスト(Institutional Testing Program)が受験できます。留学先によっては、ITPのスコアでも出願可能です。

TOEIC／就職対策

本学科では、企業が一般的に「評価できる」とする目標点(730以上：990が満点)の達成を目指しています。

2013年度入学生のTOEICベストスコアの平均点の推移



備考：入学時のIPテストと最終学年の公開テストのベストスコアを比較したものです。
公開テストを受験した41名のみ対象。
24名が800以上(5名が900以上)に達しました。

留学体験レポート

先輩たちの体験談集

受験生のみなさんはそれぞれに大学に入ってからこんなことしてみたいという願望や、また何ができるのかという疑問を抱いているかと思います。本学科では留学という一つの選択肢が用意されています。留学といっても行き先によって事情が異なります。そこで、留学について少しでも具体的なイメージをもってもらえるように、みなさんの先輩となる人たちの留学体験談を紹介します。

郷に入っては郷に従え!

私はドイツのアウクスブルク大学に1年間留学しました。アウクスブルクは、ドイツ南部の都市ミュンヘンから列車で1時間ほどのところに位置しています。歴史あるこの町での生活は、主体性が求められる毎日でした。留学当初は、質問の仕方すら分からず、発言せずに授業に参加しており、そのために「眠い」、「興味ない」と尋ねられることがよくありました。その時は「ドイツ語が聞き取れるまでの辛抱だ」と考えていましたが、数ヶ月が経って、それが間違いだと思い知りました。聞き取ろうとするばかりで、自らコミュニケーションを取ろうとしていないことに気づいたからです。主体性を重んじるドイツでは、自分の考えや意見を伝えることが非常に重要です。このことを意識した留学生活の後半は、ドイツ人学生向けの講義を履修したり日本紹介イベントを主催したりと、現地でしかできない経験を多くさせていただきました。『郷に入っては郷に従う』ことが、私の留学生活をかけがえのないものにしてくれました。

五十島 拓伸 さん ● 4回生 ● 交換留学

「ボンジュール!」で踏み出そう

リールはベルギーとの国境付近に位置しており、パリからは高速鉄道TGVを使えば約1時間で移動することができます。交通の便が良いため、フランス以外に5カ国を堪能することができました。留学先のリール政治学院には日本語学科がないため、近隣の他大学で日本語授業に参加し、合気道道場にも通って、日本人のコミュニティからは抜け出し、自分のペースで現地の人々と接するように努めています。道場には様々な職業や年齢層の人たちが来ていて、リールにあるお店を紹介してもらうこともありましたが、近辺でできるボランティアの情報などを教えてもらうこともありました。経験は与えられるものではありません。情報がそろっていないことなど当たり前話ですので、自分から一歩踏み出して話かける努力をし、相手の話にしっかり耳を傾けることによって思いもよらない出会いや発見を得られるものです。そして出会いは何気ない挨拶から始まります。まずフランスで生活してみても驚くのは、よく挨拶をすることです。お店を出るときは多少無愛想に見えるフランス人の店員にも笑顔で挨拶を試してみよう。意外にも気持ちよく「Bonne journée(よい一日を)」と返してくれるですよ!

本城 志帆 さん ● 4回生 ● 交換留学

毎日が発見の韓国留学

韓国についてどのようなイメージを持っていますか?私は留学する前には飛行機であれば2時間程度で行けるほど近くにある国ということもあり日本とよく似ているのではないかと思っていました。しかし韓国へ行きその考えは間違いだ気づきました。

私の通っていた光云大学(韓国ソウル市)では語学学習のほかに週一回韓国の文化を学ぶ授業があります。その他にもアルバイトを経験するなどして積極的に韓国の様々な文化に触れたり、韓国の人々と交流する中で日本とは違う考えや習慣を発見したり、「隣の国でもこんなに違うのか!」と驚き刺激を受ける毎日でした。例えば、韓国には速さを求める文化があります。タクシーやバスが日本とは違ってとても速く、食堂でも料理を注文すると即座に料理が出てきます。この留学で、私の語学力は飛躍的に伸び、帰国前には韓国語能力試験で最上級である6級に合格しました。これからは留学経験を生かし、韓国の面白さを日本で発信していきたいです。

今村 奈津美 さん ● 2016年3月卒業 ● 交換留学

協定校等の
具体的な留学先

派遣留学

ミシガン州立大学連合(15校)

・セントラルミシガン大学
・イースタンミシガン大学
・フェリス州立大学
・グランバレー州立大学
・レイクスペリオル州立大学
・ミシガン州立大学
・ミシガン工科大学
・ノーザンミシガン大学
・オークランド大学
・サギノーバレー州立大学
・ミシガン大学アナーバー校
・ミシガン大学ディアボーン校
・ミシガン大学フリント校
・ウェイン州立大学
・ウェスタンミシガン大学

カリフォルニア州立大学
モントレーベイ校
《アメリカ合衆国》カリフォルニア・
マウントセントメリーズ大学
《アメリカ合衆国》シドニー工科大学
《オーストラリア》オークランド大学 派
《ニュージーランド》

ランシング・コミュニティカレッジ 派

ミシガン州立大学連合(15校) /

ミシガン州アルマカレッジ

ミッドミシガンコミュニティカレッジ

《アメリカ合衆国》

ビクトリア大学 派

《カナダ》

ミズーリ州

コロンビアカレッジ

《アメリカ合衆国》

ワシントン州

スカジットバレーカレッジ 派

オリンピックカレッジ 派

エベレットコミュニティカレッジ 派

《アメリカ合衆国》

アラバマ州

オーバーン大学

モンゴメリー校

《アメリカ合衆国》

自分の知らない自分を見つけよう

私はカナダのビクトリア大学付属English Language Centreに留学していました。ビクトリアは自然が豊かで景色が美しく、人々は気さくで親切で、とても素敵な所です。

留学したからには何か少しでも自分を変えたいと思い、日本人とでも絶対に英語しか話さない、と自分の中で決め、自分から積極的に人に話しかけたり、真っ先に意見を言ったりする事を心掛けました。ですがこれは容易な事ではなく、かなりの勇気が必要で、常に言いたい事が上手く言えないもどかしさと、自分の英語は上達しているのかという不安がありました。しかし思い切ってやってみることで、私もここまで積極的になれるのかと今まで知らなかった自分の一面に気が付き、やりきった時には大きな達成感を感じました。また、ホームステイ先ではカナダのサンクスギビングデーを体験することができました。巨大な七面鳥を焼き、皆で食卓を囲んで語らう、家族のあたたかさをを感じる素敵な行事でした。留学中は楽しい事だけでなく辛い事もありましたが、様々な事を学び成長できて、留学して本当に良かったと思っています。

北川 ひなの さん ● 3回生 ● 派遣留学

「正解」か「不正解」かなんて関係ない!

私が約10ヶ月間留学したColumbia Collegeは、ミズーリ州のコロンビア市にあり、比較的小さな大学です。大学周辺は、滋賀県の落ち着いた雰囲気によく似ていたこともあり、とても住み心地が良かったです。また、ダウンタウンも大学から歩いて2分で行ける距離にあります。そのため、平日によく友達とカフェで勉強したり、週末にはバーに行って楽しい時間を過ごしたりしました。

アメリカ滞在中に、一番勉強になったことは、「自分の意見をどの場面でも伝える」ことがいかに重要であるかということです。アメリカでは、授業中や友達との他愛もない会話の中でも、常に意見を発信するというのが求められます。どんな意見であっても自分がそう思ったのなら、伝えることが大切なのです。そしてその発言は、一つの意見として必ず尊重されます。日本にいると何かを実際に発言する前に、「正しい」のかがどうかが気になってしまい、つい自分の意見を伝えそびれてしまうことがあります。自分という存在を周囲に示すために、自分の意見を伝えることが大切と考えるアメリカの価値観を知ったことは、大きな財産になったと思います。

上田 大樹 さん ● 4回生 ● 交換留学

自分から行動すること

私は約5か月間ニュージーランドのオークランドという町に留学しました。ニュージーランドは南半球にあり、日本とは季節が逆になりますので真夏のクリスマスを経験することができました。現地の人々は、とても気さくで自由な人が多く、雨が降っているのに傘を差さなかったり、裸足でサッカーをしたりするのを見てカルチャーショックを受けました。また、私の暮らしていたオークランドは「帆の街」と呼ばれる港町で、港に行けばたくさんのヨットが並べられています。私が通っていた学校は、オークランド大学付属の言語学校で大学進学を目指す人がほとんどです。学校には幅広い年齢層の人が通っていて、学びなおすために退職してきた30歳の人や、まだ17歳や18歳の若い年齢の人もあります。この留学を通して感じたことは、友達を作るにしても、自分の意思を伝えるにしても、何事においても自ら発言しなければいけないということです。黙っているだけでは、誰も話しかけてはくれないし、気を使ってくれません。語学だけでなく自分から行動することを経験することができました。

吉竹 真穂 さん ● 3回生 ● 派遣留学

生活すべてが学べる時間

私は中国の海南大学に1学期間留学しました。海南大学は中国のリゾート地である海南島にあり、気候は一年中温暖です。学内外では多くのイベントが行われ、私も積極的に参加していました。それは、様々な環境に身を置くことによって幅広い知識を身に付けるためです。例えば、ボランティアで現地の中学生に英語を教えた時には生徒から中国の学校について詳しく聞くことができましたし、また中国人学生の日本文化サークルに参加した時には学生の間で流行している日本のモノを知ることができました。人々との交流を通して、日本の「当たり前」と中国の「当たり前」の違いを発見していく毎日はとても楽しく、刺激がありました。同時に自国についても様々な角度から見て考えるようになりました。また、日常生活の値段交渉などによって精神的にも強くなれたと思います。イベントひとつ、買い物ひとつをとっても全て学習で、日本での勉強だけでは知り得ないことを学ぶ日々でした。この留学は私にとって大きな成長の機会となりました。

中嶋 紗也子 さん ● 4回生 ● 交換留学

リーズ大学 派
《イギリス》

リール政治学院《フランス》

オルレアン大学《フランス》

アウクスブルク大学

《ドイツ》

ペルージャ外国人大学

《イタリア》

セヴィリャ大学

《スペイン》

モンゴル国立大学

《モンゴル》

内モンゴル民族大学

《中国》

江原大学《韓国》

光云大学《韓国》

湖南師範大学 / 湖南農業大学《中国》

中興大学《台湾》

海南大学《中国》

サンカルロス大学

《フィリピン》



MONGOLIA



百聞は一見にしかず

私はモンゴル国立大学に1年間留学しました。この留学によって、様々な面で自分を変えることができたと思います。その1番の原動力となったのは「もどかしさ」にほかなりません。自国の文化を伝えたくとも、自国のことを意外と知らないことが多かったために、伝えることのできない「もどかしさ」、自分の意志を伝えることがうまくできない「もどかしさ」。確かに、この「もどかしさ」を解消してくれるのは語学力でしたが、言語を習得することだけを留学の目的としていたわけではありませんので、私は滞在期間を利用して、その時にしかできないことを体験するように心がけました。例えば、遊牧生活を自分の肌で実感してみたかったので、遊牧民の人たちのところに何度か訪れましたが、その際に牛の乳搾り、乗馬、羊の放牧、羊の屠殺まで体験することができました。モンゴルについては日本にいるときに講義や本で学んだのですが、本場で自分の目で見て、体験することでより理解が深まり、新たな発見へとつながることができました。そして、このような体験をしながら、モンゴル語も自然とできるようになりました。私にとってモンゴル留学は本当に貴重な経験となりました。

柴田 友登 さん ● 2016年3月卒業 ● 交換留学



CHINA

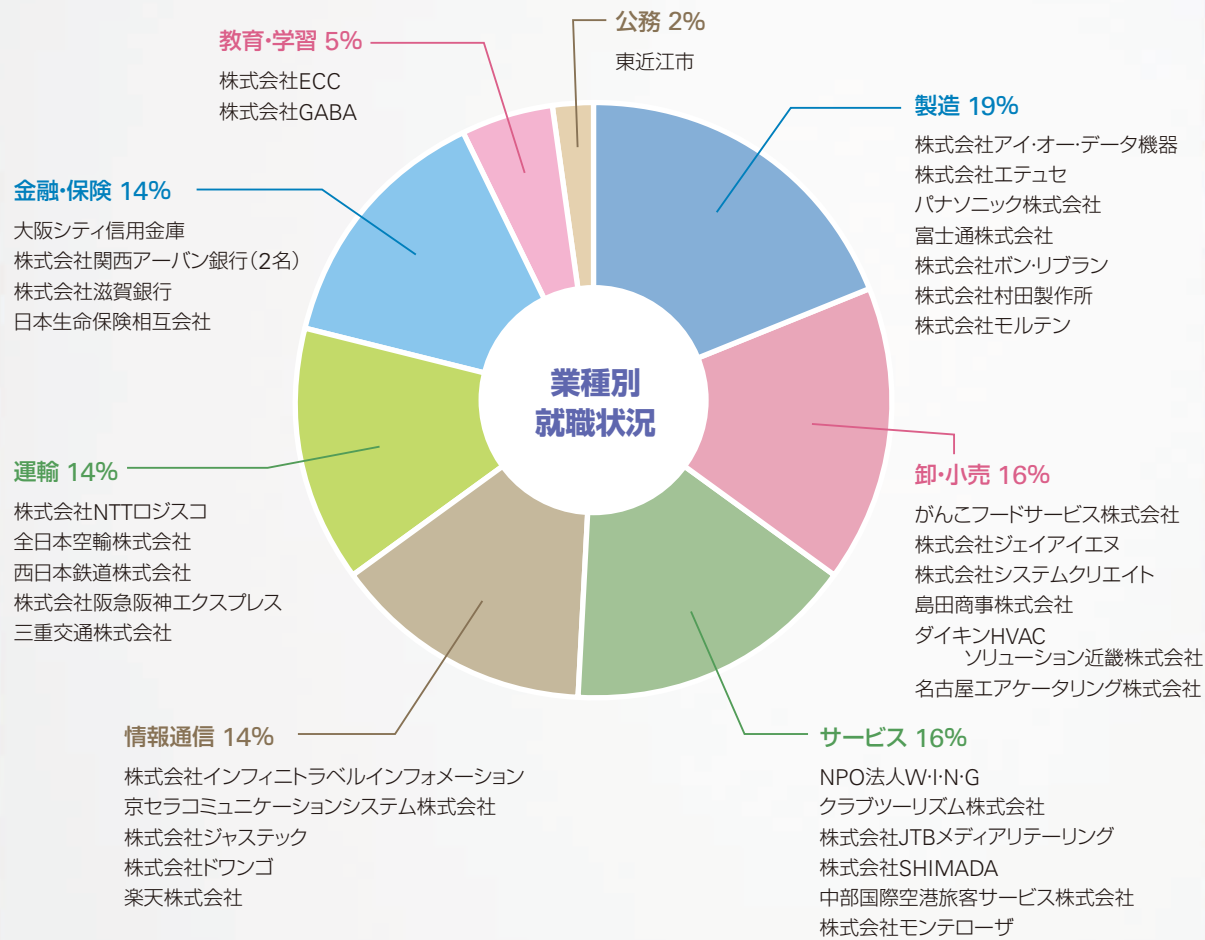
2015年度卒業生の就職・進学先

(2016年3月31日現在)

2016年3月に学科の第1期生が卒業を迎えました。就職率は100%となりました。

□ 就職

*すべての就職先企業を挙げています。



□ 進学

〈大学院〉 滋賀県立大学大学院

フューチャー・プランニング・セミナー

本学科独自のキャリアデザインの取り組みで、2014年度は教員採用試験合格体験者やテレビ番組ディレクターに就職活動の体験や実際の仕事内容について語っていただきました。2015年度は本学科の就職内定者に体験談を語ってもらいました。また、架空の会社で就職活動が体験できる「ヴァーチャルリクルート」というセミナーを実施しました。



就職支援

卒業生
メッセージ

勤務先：株式会社GABA

本永 実音佳さん(2015年度卒業)

弊社は「Gabaマンソーマン英会話」を東名阪に42校展開しており、受講生の英会話上達のお手伝いをしております。私は現在、名古屋市の繁華街、栄のスクールにて、受講生一人ひとりに適した英語の学習アドバイスや目標に到達できるプランをご紹介したり、快適に学習できる環境づくりをしたりしています。



大学時代に、海外からの留学生に「日本での生活を楽しんでもらいたい、サポートしたい」という思いで立ち上げた留学生支援サークルでの経験が、現在受講生のサポートにそのまま役立っています。国際コミュニケーション学科で得た学問的な知識はもちろんのことですが、アメリカ留学や課外活動など、学内外の様々な経験が、今の自分の職業に繋がっています。「国際社会への貢献」が実現できる大学生活を送ることができるのが、この国際コミュニケーション学科の魅力です。

皆さんも興味のあることにどんどんトライして、充実した大学生活を送ってくださいね。

勤務先：パナソニック株式会社

岡崎 有晶さん(2015年度卒業)

弊社は、家電、住宅設備、車載、BtoBソリューション、デバイスと、多角的な事業を行っています。その中で私は、主に照明やキッチン・バスなどの住宅設備を扱うカンパニーに所属しています。



現在、私は入社して4か月目を迎えるところです。総合職の営業として中部エリアに配属され、商品研修や営業同行をしながら、商品知識と営業スキルを学んでいます。

私には「"Made in Japan"を世界に広めたい」という夢があり、その思いを実現できるグローバルな企業を対象に就職活動を行いました。3回生の時に留学したアメリカで、日本製品が使用されているのを目にし、その良さをさらに広めたいと感じたためです。アメリカ留学の際、様々な国の人々と意見交換をする中で、異文化コミュニケーションの難しさを体感しました。この経験から、語学力の高さはもちろん、相手を理解しようとする姿勢がコミュニケーションの基本であるということも学びました。

将来は、海外営業を希望していますが、まずは学生時代に身に付けた英語力にさらに磨きをかけながら、世界でも通用する営業スキルを身に付けていきたいと思っています。みなさんも是非、語学力+αを得られる学生生活にしてみてください。

勤務先：クラブツーリズム株式会社

田中 莉帆さん(2015年度卒業)

私が勤務する会社は、国内旅行、海外旅行、バス旅行、テーマ旅行の4つを扱っており、旅行の企画から添乗まで全ての業務に社員が携わっているのが特徴です。現在私は名古屋国内旅行センターの北海道チームの一員として北海道旅行の手配をしたり、添乗員として月に2〜3回全国各地へのツアーに同行したりしています。入社してまだ3ヶ月ですが、一から観光地や食事施設などの手配も担当させていただいています。決して楽な仕事ではありませんが、とてもやりがいを感じているところです。



在学中には文化人類学ゼミに所属し、10ヵ月間のアメリカ留学もしました。国内旅行センターに配属されたため英語を使う機会は今のところありませんが、留学中に身につけたコミュニケーションスキルは添乗する際の接客にうまく活かすことができていると思います。

受験生の皆さんに伝えたいのは、英語をはじめとした外国語を話せるようになることだけが全てではないということです。その背景にある文化、歴史、社会を学び、言語をツールとして使えるようになることが重要です。そうした学びの環境が整っていたのが国際コミュニケーション学科でした。

勤務先：株式会社村田製作所

芝田 翔子さん(2015年度卒業)

弊社は世界シェアNo.1の製品を多数保有する電子部品メーカーです。海外売上高は90%を超え、海外と関わる機会がたくさんあります。私は、商品を国内外に販売推進する部署に所属し、具体的には、メールで国内外の営業とやりとり、資料の作成・英訳、製品の輸出など、学生時代に身につけた力を活かして仕事をしています。



国際コミュニケーション学科では、留学を約1年間しても、4年間で卒業できるカリキュラムが組まれているので、目標に向かって安心して取り組める環境でした。学内でも留学生と関わる機会が多くあります。この学科には、留学生の語学サポートをしながら、日本人学生と共に京都や滋賀を観光したり、映画を見たりして楽しむ活動もあり、語学だけでなく国際的な視野やコミュニケーション力を修得することができました。

発足してまもない学科ですが、だからこそ先生方と学生達が意見を出し合いながら、より学びのある、明るく楽しい環境を創り上げることができています。海外に興味があって、様々な人と関わるのが好きという方にはぜひこの学科を推薦したいです。

取得可能な資格

- 中学校教諭1種免許状(英語) ● 高等学校教諭1種免許状(英語)
- 以下の検定試験の受験をサポートします。
- TOEFL® ● TOEIC® ● TOEIC®SW ● 中国語検定試験 ● 漢語水平考試(HSK) ● 実用フランス語技能検定試験
- DELF・DALF(フランス語) ● ドイツ語技能検定試験 ● 韓国語検定試験(TOPIK) ● ハングル能力検定試験 ● 通訳案内士試験 etc

資格等